

1. 職名・氏名 教授・有田広美

2. 学位 学位 博士、専門分野 看護学、授与機関 名古屋大学大学院、授与年月 2014.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人看護学概論（1単位 15時間 毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 成人期にある人々の特徴をライフサイクルの視点から捉え、成人期に特有な健康問題を環境や生活習慣など現代社会と照らし合わせて理解する。また、成人看護の対象となる人への支援に有用とされる概念や理論について学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 青年期の特徴は学生自身を振り返り、また壮年期は自分の親に聞き取りをするなどしてそれぞれの生活や健康について理解できるように進めている。受け身の授業にならないようにグループ毎にテーマを与え、成人看護に必要な理論についてグループで学習してプレゼンテーションを行う形式を取り入れている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 緩和ケア論（1単位 15時間 毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 緩和ケアの概念、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。さらに、残された時間が限られた人とその家族の心理、倫理的課題など事例を基にディスカッションやディベートを活用して患者および家族への看護を探究し、自らの死生観も養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 緩和ケアにおいては2年次開講であるため、まだ生や死を身近に感じる体験が少ない。そこで、実際のドキュメンタリーを視聴して、患者および家族の心理、ターミナルケアについてグループワークを通して考えさせている。また、受け身の授業にならないように、グループごとに課題を与え、グループで学習してプレゼンテーションを行う形式を取り入れている。緩和ケアの専門看護師の特別講義を開催している。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学（2単位 30時間 毎年開講）2年次後期
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人々の健康の回復または健康障害を持つ人々がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 慢性疾患の病態、検査、看護の基礎知識の講義内容を、それぞれの専門領域を持つ教員、認定看護師、専門看護師による実践的な講義を受けることで知的関心を引き出すように努めている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学演習（1単位 30時間 毎年開講）3年次前期
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人および運動機能障害を持つ人がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。また、看護問題の解決に必要な思考プロセスを養う。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 後期の成人慢性看護学実習および療養生活マネジメント実習に向けて、セッション1～2に分け、セッション1ではがん化学療法を受ける患者の事例展開、セッション2では退院支援を必要とする患者の事例展開を行う。昨年は初めての試みとして、8人で退院前カンファレンスのロールプレイを実施した。演習は、個人ワークとグループワークとし、教員3人で3グループずつ受け持ち、少人数指導による学生の個別性に合わせたきめ細かい教育を行っている。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学実習（2単位 毎年開講）3年後期</p>
<p>②内容・ねらい 慢性の病をもつ人、または健康を回復する途上にある人とその家族に対して看護が提供できる基礎能力を養う。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1週目の終わりにはプライマリナースと学生とで看護計画についてのカンファレンスを開催し、実践者から直接指導を得る機会を作っている。カンファレンスでは、対象の全体像や看護上の問題、学生自身が困っていることなどの発表から、自己の課題と学生の学びが最終目標に向かうように指導している。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 療養生活マネジメント実習（2単位 毎年開講）3年後期（2017年新カリキュラム追加）</p>
<p>②内容・ねらい 慢性疾患や機能障害を持つ対象者とその家族の生活や生き方を尊重し、退院後の生活につながる支援のあり方を学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1週目で退院後の療養生活を視野に入れた看護を実践し、2週目はケアカンファレンスに参加、地域医療連携推進室の見学実習、退院支援を行う上での困難について看護師にインタビュー等を通して退院支援における看護師の役割を理解する。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人看護発展セミナー（1単位 毎年開講）4年次前期</p>
<p>②内容・ねらい 既習の緩和ケア論で修得した知識および基礎看護学実習・専門領域看護学実習の体験を活かしながら、緩和・ターミナル期の病状経過に応じた患者・家族の援助を考える応用編である。緩和ケアに関して関心のあるトピックスを自ら調べ、そのテーマに関する文献抄読やディスカッションを行う。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習後の緩和ケア応用編であるため、疑問を明確にして、がん看護専門看護師が活動している場、在宅緩和医療を実践している訪問看護ステーションに出向き、フィールドワークを通して病院、外来、在宅での視点で緩和ケアを必要とする人への支援を自律的に学ぶ。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位 毎年開講）4年次通年</p>
<p>②内容・ねらい 看護実践を発展させるための看護研究のプロセスを理解し、研究態度を身につける。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学習会や合同ゼミを取り入れながら学生が研究プロセスを理解して意図的に進められるように、個と集団での学習を意識している。また、学生の苦手な論理性、一貫性を常に意識させた指導を心掛けている。卒業研究は、長期間に及ぶ取り組みのため、最後まで粘って自分の研究疑問に取り組めるように精神面の強さの育成もねらいとしている。</p>
<p>①担当科目名（単位数）主たる配当年次等 看護マネジメント実習（2単位 毎年開講）4年次前期</p>

②内容・ねらい

看護組織員の役割・機能、看護師への教育・キャリア支援の実際、組織における患者の安全管理システムの実際の見学を通して、また看護チームの一員としての実習することで看護サービスマネジメントの実際を学ぶ。この実習は、「看護の応用と発展」の科目として位置づけられ、すべての領域実習が終了している時期に行われる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

病院には、看護部の役割、医療安全や感染予防委員会の役割などこれまでの実習では学べない視点での臨床講義を依頼し、その内容が病棟でどのように実践されているかを学べるようにしている。看護師長や副師長およびリーダー看護師について管理者の役割を学び、さらにメンバーとして実際のケアに参加し、メンバーの役割を学び、組織の一員として看護を提供する事をマネジメントの視点で考えさせる。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

看護倫理学（2単位 毎年開講） 大学院1年後期

②内容・ねらい

倫理的な意思決定を行うための基礎知識として医療・看護倫理の歴史的背景と倫理に関わる主要な概念について学習する。さらに、倫理調整を行うための方法論を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

看護倫理に関する歴史、概念の学習を行い、倫理原則、看護倫理綱領および倫理問題の分析ツール等を用いて倫理的問題をはらむ事例検討の演習を行う。また、看護研究における倫理的配慮の必要性を学び、看護研究模擬計画書の倫理審査を行う演習や説明書と同意書を作成しインフォームドコンセントのロールプレイを行っている。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

成人慢性看護学特論（4単位 毎年開講） 大学院1年前期

②内容・ねらい

慢性病および慢性病を持つ人の特性について、様々な視点から理解を深める。慢性病者の支援に有効な理論について学び、看護実践に活用できる基礎を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

中範囲理論を学習してプレゼンテーションを行う。単なる知識だけで終わらないために臨床で経験した事例に照らして理解を促し、看護実践に応用できる事を目指している。また、多数ある理論の中で一般的に広く使われている理論の他に、看護研究で取り上げられている概念や理論を紹介している。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

成人慢性看護学演習（2単位 毎年開講） 大学院1年後期

②内容・ねらい

文献レビューとクリティークを通して、成人看護学領域で必要とされる実践および研究課題を探求する。また、研究課題を達成するための研究方法を学び、研究計画書を作成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

文献検索および文献検討の基礎から学習し、文献抄読会を通して文献内容の読解力を鍛え、文献検索・プレゼンテーション力、クリティークの視点で論文を読む力を養う。関心のある領域の文献を検討し、自己の研究課題を焦点化し、研究方法の検討など研究計画書を作成する。また、インタビューを実施し、質的分析の演習とアンケート質問紙を作成し、量的分析の演習を行う。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

成人看護学特別研究（10単位） 大学院2年前後期

②内容・ねらい

特論、演習で学んだ知識を活用し、さらに主体的に研究の進め方について学習し、研究者としての基礎能力を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究計画書に沿って進め、適宜ディスカッションを重ね、データ収集、分析、結果考察を導き、論文作成までの研究過程を展開する

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名
ターミナルケア看護（1単位） 敦賀市立看護大学（看護学科）2018年～

②内容・ねらい

- 1 終末期医療の概念と現状を理解し告知問題や心理的特徴について学修する
- 2.緩和的治療とその看護について学修する
- 3.終末期に出現する症状のマネジメント能力を養い全人的苦痛へのケアについて学修する
- 4.終末期患者を支える家族への看護について学修する.

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

DVDをもとに終末期にある患者の精神的苦痛へのケア、家族の心理とそのケア、意思決定を支えるケアについて講義している。

④本学における業務との関連性

本学でも緩和ケアに関する講義を担当している。

(3)その他の教育活動

内容

- ・ 修士論文審査委員（副査）
- ・ 福井赤十字病院 看護研究入門 研修講師 2016～2017年

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①論文

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)

- ・深部静脈血栓症予防ケアプログラム導入後の患者の意識と予防行動, 共著(研究全般の指導), 第47回日本看護学会論文集「急性期看護」, 2017.3
- ・Lower-limb warming improves sleep quality in elderly people living in nursing homes, 共著(計画検討、データの分析・結果考察), Sleep Science, 2017年1月
- ・LONG-TERM FOLLOW-UP OF COLLATERAL PATHWAYS ESTABLISHED AFTER LYMPHADENECTOMY IN RATS, Takeno Y., Arita H., Oshima C., Mawaki A., Nakanishi K., Kurono F., Fujimoto E., LYMPHOLOGY, 50巻3号(頁:131-135), 2017年

②著書

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)

③学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

- ・外来がん化学療法を受ける患者が生活を元に戻していく過程での対処行動(第1報), 第31回日本がん看護学会学術集会, 2017年2月, 共同報告(研究全般の指導)、小澤全子、有田広美
- ・深部静脈血栓症予防に対する看護師の意識の変化—DVT予防ケアプログラムを導入して—、第48回日本看護学会 急性期看護学術集会、2017.7.8、共同報告(研究全般の指導)大谷佳絵、有田広美ほか
- ・外来化学療法を受けている患者の副作用が軽減され生活を元に戻していく過程での行動調整とそれに伴う思い、第32回日本がん看護学会学術集会、2018年2月、共同報告(研究全般の指導)、小澤全子、有田広美
- ・集中治療室で鎮痛・鎮静管理を受ける患者の睡眠: マット型睡眠計を用いて、第45回日本集中治療医学会学術集会、2018年2月、発表筆頭者: 有田広美(基盤C研究)、高山裕喜枝ほか
- ・患者会に所属する炎症性腸疾患患者の Sense of Coherence の特徴とその関連要因, 第23回日本難病看護学会学術集会, 2018年7月, 共同報告(研究全般の指導), 村上はるみ, 有田広美
- ・心臓手術後にICUで鎮痛・鎮静管理を受けた患者が病棟に転棟した後の睡眠の実態, 第15回日本循環器看護学会学術集会, 2018年10月27-28日, 発表筆頭者: 有田広美(基盤C研究)ほか
- ・集中治療室で鎮痛・鎮静管理を受けた患者の一般病棟帰室後の睡眠, 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月, 発表筆頭者: 有田広美(基盤C研究)ほか
- ・集中治療部で鎮痛・鎮静管理を受けせん妄を発症した頭頸部癌再建術患者の睡眠の特徴, 第46回日本集中治療医学会学術集会、2019年3月、共同報告(研究の実施全般) 有田広美(基盤C研究)、高山裕喜枝ほか
- ・Effects of analgesics/sedative management in ICU for sleep: A study of cardiac surgery patients, International council of nurses in singapore 2019年6月, 共同報告(研究の実施全般) 有田広美(基盤C研究)、高山裕喜枝ほか
- ・Nocturnal sleep characteristics in hospitalized elderly patients using a sensor placed under a mattress、The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020年2月採択済み, 共同報告(研究の実施全般) 有田広美、竹野ゆかりほか

④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日）） 第 50 回日本看護学会精神看護学術集会 特別講演座長（2019.8.31） 第 39 回日本看護科学学会学術集会 N-AGORA 座長（2019.12.1）
学会での役職など（学会名） 第 50 回日本看護学会精神看護学術集会 準備委員長 2018-2019 年 第 50 回日本看護学会精神看護学術集会 抄録選考副委員長 2019 年
学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所） 福井県看護研究発表会開催運営および査読 2014 年～2017 年 日本看護科学学会学術集会の査読、2016 年～現在 福井県看護学会運営および査読 2018 年～現在 第 50 回日本看護学会精神看護学術集会 準備委員長 2018-2019 年（2019 年 8.30-31 開催） 第 18 回日本看護技術学会学術集会企画委員 2018-1019 年（2019 年 9 月 6-7 日開催） 第 39 回日本看護科学学会学術集会企画委員 2018-1019 年（2019 年 11.30-12.1 日開催）
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間））
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
2016～2019 年度 科学研究費助成基金基盤研究（C）研究代表者 2016～2019 年度 科学研究費助成基金基盤研究(B) 研究分担者
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） 福井循環器病院地域医療推進委員 2014年～現在 福井県看護協会 学会委員会 2014年～現在（委員長 2015年～2018年） 福井県看護協会理事 2018年～2019年 福井県赤十字病院 看護研究指導 2019年 石川看護実践学会誌 査読委員 2014年～現在
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 2018年公開講座 10月永平寺キャンパス寝活のススメ～気持ちの良い眠りのために～ 2018年公開講座 12月小浜キャンパス 寝活のススメ～気持ちの良い眠りのために～ 2019年公開講座 11月永平寺キャンパス「眠りの不思議」 2019年公開講座 12月小浜キャンパス「眠りの不思議」 2019年公開講座 11月永平寺キャンパス「転ばぬ先の知恵（杖）、転んだあとの知恵（杖）」 2019年公開講座 11月小浜キャンパス「転ばぬ先の知恵（杖）、転んだあとの知恵（杖）」
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 2018年度 開放講義 仁愛女子高等学校，緩和ケアにおける意思決定支援，11月27日
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間） 2017年2月25日 第6回「禅の里」まちづくり講演会 パネリスト、上志比文化会館サンサンホール 2019年7月 福井県看護協会看護管理者研修～看護師の確保と人材育成～ 2019年9月 ラジオ放送講座 いきいきセミナー「眠りの不思議」

6. 大学の管理・運営

(1)役職 (副学長、部局長、学科長)
(職名、期間)
(2)委員会・チーム活動
(名称、期間) 研究等における人権擁護・倫理委員会 ワーキンググループ 2019年～現在 看護学科入試制度検討ワーキンググループ 2014～2016年、2019年～現在 3年次生・4年次生学年主担任 2017年～2018年 カリキュラム検討委員 2018年～現在 学生就職支援委員 2019年～現在 国際交流吉林大学 2018年～現在 研究科修士論文係 2017～2018年 大学院看護学専攻博士後期課程設置プロジェクトチーム委員 2018年～現在
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時) 2018年度 オープンキャンパス (成人看護学)
(4)その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)